

「正解のない時代」を生きる子どもたちに「未来を生き抜く力」を ういず・アンジェリカの **非認知能力プログラム**

WITHグループでは、「英語」や「体育指導」「WITHオリジナルドリル」「こども会議」など、子どもたちの持っている力を最大限に引き出すためのさまざまな取り組みと環境を用意しています。今回はその中でも、私たちの環境設計のもっとも重要な土台として大切にしている「非認知能力の成長」について紹介させていただきます。子どもたちが幼児・学童期に身につけておくべき力とは何でしょうか。

点数にできる 認知能力 みえる学力

- 基礎学力（読み書き計算）
- 基本的な知識・技能・運動能力
- 専門性・専門知識



点数にできない 非認知能力 みえづらい学力

- 意欲と粘り強さ
- 自尊感情（自信）
- 楽観性
- 好奇心
- 自己制御（自制心）
- 批判的思考
- 共感性



いままでは「みえる学力」を重視 → 幼少期の土台「非認知能力」が注目されるように！

幼少期に大切な「遊びを通した学び」



「遊び」は、子どもたちが「やりたい！」と意欲的にかかわっていることです。子どもが楽しみながら取り組んでいるとき、子どもにとってすべての活動は「遊び」になります。

「非認知能力」は遊んで育つ



私たちは、子どもたちが「遊びこめる環境」を用意します。保育園の遊具（おもちゃ）も私たち保育者も子どもたちが自分の力で遊ぶことができるようになるためのサポーターです。

「やりたい！」が十分に満たされる経験（遊び）は、生涯を通して消えることがない、どんなことも積極的に取り組むことができる「心と身体の栄養」になります。

私たちは成長の土台となる
「受容的なかわり」と「主体性をはぐくむ環境」を大切にしています



『やってみよう！』と思う気持ちを大切に見守り経験を重ねることで、他者に対しての思いやりや友だちと協力する楽しさへとつながります。

Column

幼児・学童期に育まれる『非認知能力』

【非認知能力と認知能力の成長プロセス】



WITHグループは「非認知能力と認知能力の成長プロセス」を踏まえた保育を行っています。

非認知能力は心と身体の栄養

テストや試験などでは測れない（認知されにくい）力を総称して「非認知能力」といいます。多様性が尊重される「正解のない時代」を生きるこれからの子どもたちにとって**心と身体の栄養**となるのが非認知能力です。非認知能力は、成長の土台を築く**幼児・学童期に育ちやすい**といわれています。

私たちが大切にする「受容的保育」のなかで子どもたちは、ありのままの自分を受け入れてもらい、お友だちのことも受け入れられる**「他人とつながる力」**をのびのびと育てていきます。

その力は、たくさんのことを学ぶために必要な**「自分とむきあう力（認知能力）」**の土台となります。そして子どもたちが主体となる環境を通じて、自信を持って**「自分をたかめる力」**を育てていきます。



保育所まあむ月島駅前園

東京都中央区佃2-10-9
TEL：03-3520-8600

園長：白井大輔